

十勝川千代田実験水路運営準備委員会 NEWS【第2号】

第2回 十勝川千代田実験水路運営準備委員会が3/4に開催されました。

帯広開発建設部では、十勝川千代田新水路に設置される『十勝川千代田実験水路』の運営・準備に当たり、「十勝川千代田実験水路運営準備委員会」を設置し、実験水路の技術的検討を行い、提言をいただくこととしています。

その第2回委員会と現地見学会が、帯広において下記の内容で開催されました。

【第2回委員会の開催日時等】

- ・委員会日時：平成16年3月4日
12:00～15:00
- ・開催場所：ホテルノースランド帯広
- ・現地見学会：9:30～11:30

第2回委員会は、長谷川委員を除く委員(8名)が出席したほか、報道関係1社の取材と一般傍聴者13名の参加がありました。

委員会では、午前中に現地見学会を行い、千代田新水路の現況を確認しました。また、午後からは、第1回委員会で指摘のあった事項への対応及び実験水路計画に対して事務局から説明し、下記の議題に対して活発な意見交換が行われました。

【第2回委員会の議題】

- (1)『第1回委員会』の発言要旨
- (2)委員会の役割
- (3)実験水路運営方法
- (4)研究テーマと実験スケジュール
- (5)観測施設(案)
- (6)実験を行う上での留意点
- (7)その他(次回委員会の開催日時等)



写真-1 第2回委員会の様子

第2回 十勝川千代田実験水路運営準備委員会名簿

(平成16年3月4日)

| 区分 | 氏名 | 所属 |
|------------|-----------------|--|
| 委員 | 泉 典洋 | 東北大学大学院 工学研究科 助教授 |
| 委員 (代理) | 今日出人 (石塚宗司) | 北海道開発局 建設部 河川計画課 河川企画官 (課長補佐) |
| 委員長 | 清水 康行 | 北海道大学大学院 工学研究科 助教授 |
| 委員 (代理) | 末次 忠司 (坂野 章) | 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 室長 (主任研究官) |
| 委員 | 戸田 祐嗣 | 東京工業大学大学院 理工学研究科 助手 |
| " | 中津川 誠 | 北海道開発土木研究所 環境水工部 環境研究室 室長 |
| 委員 (欠席) | 長谷川和義 | 北海道大学大学院 工学研究科 教授 |
| 委員 | 藤田 光一 | 国土技術政策総合研究所 環境研究部 河川環境研究室 室長 |
| " | 渡邊 康玄 | 北海道開発土木研究所 環境水工部 河川研究室 室長 |

(敬称略、五十音順)

十勝川千代田新水路事業平面図と現地見学会の状況

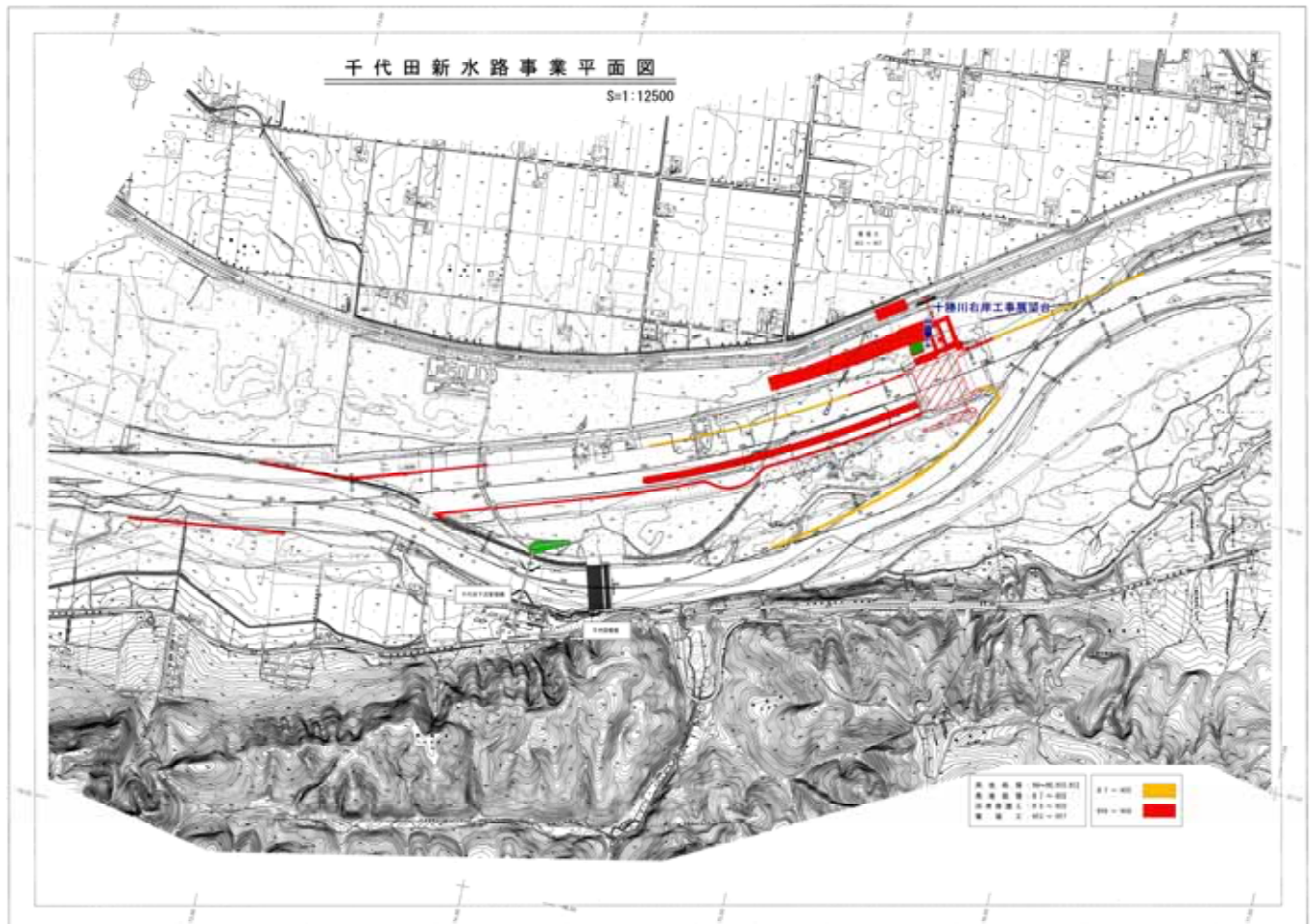


図-1 千代田新水路事業の平面図



写真-2 現地見学会の状況



写真-3 千代田新水路の工事状況

第2回十勝川千代田実験水路運営準備委員会では次のような意見が出されました。

議事録としては、今回の発言要旨程度の要点的なものとする。

ある程度大きい項目は準備委員会、それを受け年度毎の細かいことをアドバイザー委員会でやると思うが、アドバイザー委員会で長期計画の見直しが必要だと思う。

共同研究は、その程度にもよるため、協議とするのがよいと思う。ただ、一つ一つ協議するのも大変だと思うから、もう少し、検討の上つめて欲しい。

データだけ公開しても意味がないので、データ整理や研究をどこがやるのかを決めておいた方がよい。

基本となる3研究テーマは、実施すべきである。例え共同研究者がいなくても、基本研究は、実施する意義がある。

発表するレベルは、生データレベルでも良いと思う。ここでしか取れないデータを観測して発表する事だけでも価値がある。

共同研究に関する水路内構造物については、実験に影響のない部分では、許可しても良いと思う。ケースバイケースで考えて欲しい。影響がでなければ、設置可能にして欲しい。

基本実験の観測施設、例えばボート等は共同研究者が利用できないのか。観測施設の提供がないと、実河川に近い水路で観測できるというだけで、メリットが少ない。

基本研究テーマに対して、今までの成果と今回の実験水路でなにがわかるかを整理する必要がある。

構造物の堤防破壊の実験を先にやるべきである。スタンスによっては実験順序が異なるから、必要性を検討して優先順位を作る必要がある。観測手法・機器の開発は、実用性が高く、優先度が高い。

平成30年度に堤防破壊実験を行うことになっているが、成果としての活用を優先するものを先に行うべきである。

スケジュールに多少違和感もあるが、予定として委員会でまとめる必要があるため、今回のスケジュールを支持したい。

原案スケジュールの最初が砂州の実験と言うことでは、良いと思う。

実験スケジュールを決めるには、基本実験の成果に対する整理が必要である。各委員も協力して決める必要がある。

最初に基礎的な砂州の実験を見るのは良いと思うが、全体スケジュールの基本的な考え方を整理して欲しい。

新水路側の観測施設がないようなので、地下水関係の観測井戸等も欲しい。また、実河川より充実した観測機器の設置が必要だと思う。

実験水路に河床波と砂州を横から見ることのできる施設(観察窓)を検討してもらいたい。

河床、流速等の測定に関して杭ワイヤー方式だと全面的に測れず、局所的となるので問題がある。

ラジコンボートは、実河川で河床波をとっているから、不可能ではない。ただ、操縦者の技量が必要。面的に観測するには、ラジコンボートを縦横無尽に操作できる操縦者を育成する必要がある。

流速は、すべて ADCP で観測することでよいのか。不感帯の関係もあるため電磁流速計や水面流速計は必要だと思う。また、水位計の設置は 100mピッチとなっているが、実験によってはピッチを変更できるようにしてほしい。

個々の実験で設備を変更していくとして、大枠は原案で良いと思う。

今 後 の 予 定

第 3 回十勝川千代田実験水路運営準備委員会は、平成 16 年 7 月頃に帯広で予定しております。(詳細な日時及び場所は、決定しだい帯広開発建設部の HP で発表いたします。)

なお、委員会は公開です。どなたでも傍聴していただくことができます。